

日本体育大学 佐藤正志先生 講演会まとめ

テーマ「伝え合い学び合う子の育成」

◇本研究主題のもつ意味と意義、その具現化

I 新学習指導要領総則から見るこれからの教育の基本的考え

1 生きる力の育成

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善を通して児童の生きる力を育む」

2 育成すべき資質・能力の明確化

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2) 思考力・判断力・表現力等を育成すること。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。



- ・人間性を含めた学びの特性を深める。
- ・(1)～(3)の3つの資質・能力に即した目標を立てて研究を進める。
- ・「知・徳・体」 育成すべき「知」「徳」をはっきりさせる。
- ・学力だけでなく、どのような資質・能力を育てていくか。

3 新学習指導要領が求める育成すべき資質・能力の3つの柱

- (1) 何を理解しているのか、何ができるのか。生きて働く「知識・技能」の習得。他の学習や生活の場面でも活用できるような確かな知識として習得。その質を高めていく。
- (2) 理解していること、できることをどう使うか。(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成) 思考力・判断力・表現力等を発揮することを通して、「深い理解を伴う知識」が習得され、それにより更に「思考力・判断力・表現力等」も高まるという相互作用の関係にある。
- (3) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。
 - ① 主体的に学習に取り組む態度。
 - ② よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度が必要。
→自分の思考や行動を客観的に把握し、認識する「メタ認知」(自分は、何ができて何ができないか)に関わる力を含む。

II 新学習指導要領が示す学びの方法

主体的・対話的で深い学びとは

(1) 定義

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、以下の視点に立った授業改善を行うことで、
- ・学校教育における質の高い学びを実現。
 - ・学習内容を深く理解。
 - ・資質・能力を身に付け、生涯に渡って能動的に学び続ける。ようにすること。

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点

- ① 学ぶことに興味・関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学びができているかどうか。
- ② 子ども同士・教員や地域の人・先哲の考え方を手がかりに考えることを通じ、自らの考えを広げ深める「対話的学び」が実現できているか。「対話」を通して学びを深める。

- ③ 各教科等で習得した「見方・考え方」を働かせ、問いを見出して解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする「深い学び」が実現できているか。

主体的・対話的で深い学びをどう実現させるか

(1) 単元を通して実現させる主体的・対話的で深い学び

主体的・対話的で深い学びは、1 単位時間の授業の中で全て実現されるものではない。
単元のまとまりを見通して実現される。

- ① 主体的に学習に取り組めるような学習の見通しを学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか。
- ② 対話によって自らの考えなどを広げたり、深めたりする場面をどこに設定するか。
- ③ 学びの深まりを作り出すために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか。
というような観点で授業改善を進めることが重要となる。

(2) 思考・判断・表現の課程（基本的な条件 問題解決の過程）

- ① 問題を見出し、解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画をたて、結果を予測しながら実行し振り返って次の問題発見・解決につなげる過程。
- ② 精査した情報を基に自分の考えを形成、表現したり、お互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団との考えを形成したりしていく過程。
- ③ 思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程。

Ⅲ 改めて研究主題について考える

1、「伝え合う」こと「学び合う」ことの意味

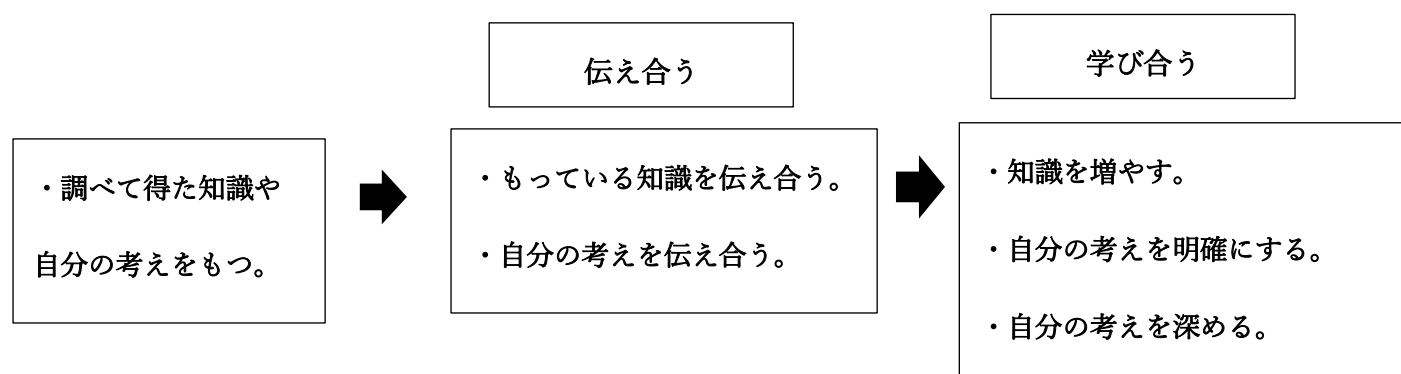
「伝え合う」内容は、調べて身に付けた知識や思考の結果としての考えである。

「伝え合う」目的は、新たな知識を得たり、新たな考えを知ったりすることで自らの学びを深めていくことである。

「学び合う」とは、互いの知識や考えを知ること、新たな知識体系や新たな考え方を構築していくことである。

「伝え合う」と「学び合う」は、学びを深めるための一体の活動として考える必要がある。

2、「伝え合う」ことと「学び合う」ことの意義



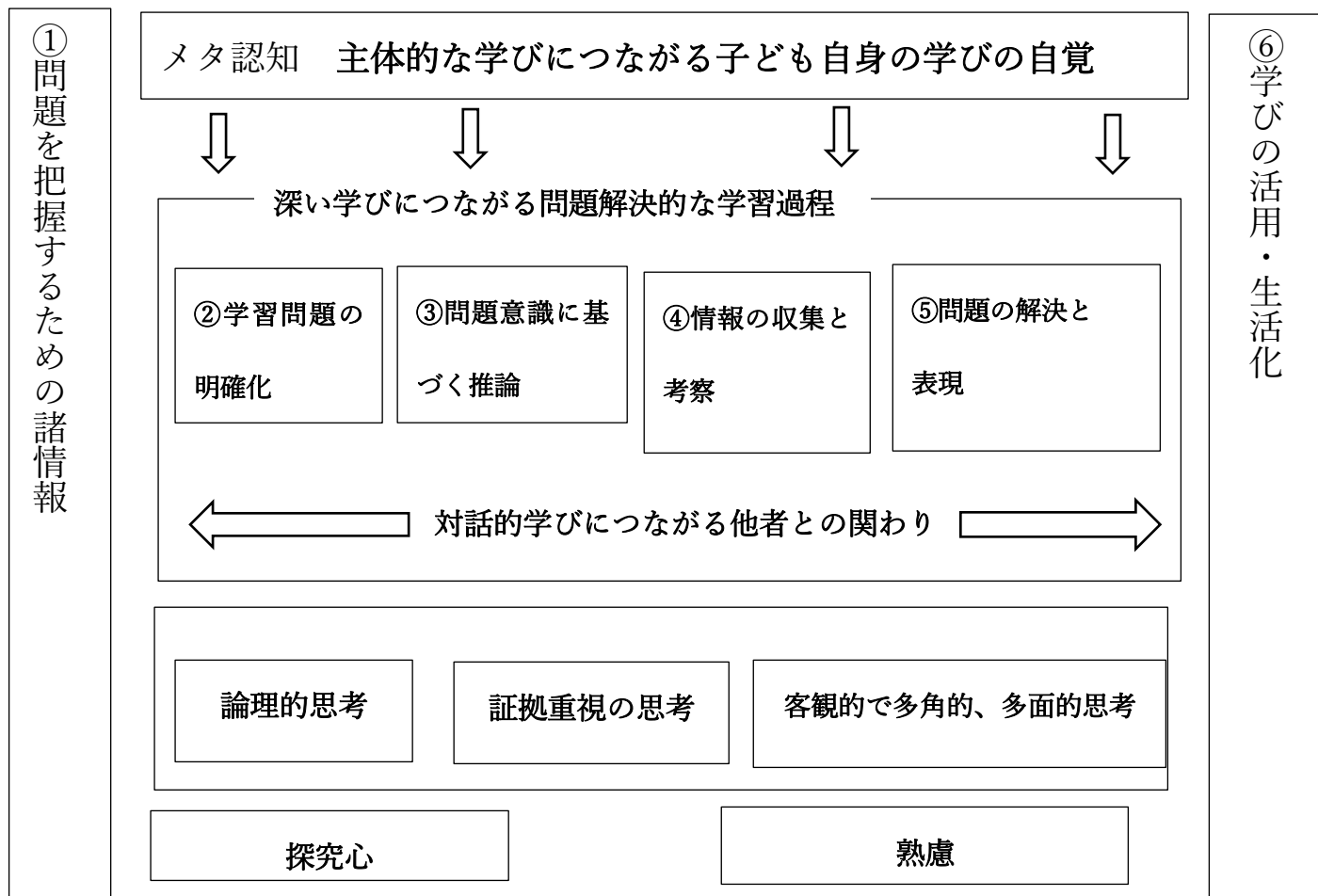
3、「伝え合い学び合う」学習を成立させるために

- ① 新学習指導要領がしめす「主体的・対話的で深い学び」を実現させることを目指し、その手段の一つとして「伝え合い学び合う」場を設定する。
- ② 何を「伝え合う」のかを明確にするとともに、どう「学び合う」のかという目的と方法を教師と児童、児童相互が共有した活動とする。
- ③ 単元全体を通して、思考・判断・表現の3つの過程のどこに「伝え合い学び合う」場を設定するのか明確にする。

Ⅳ 主体的・対話的で深い学びの具現化

1、主体的・対話的で深い学びを実現するための学びの概念図

(クリティカル・シンキングの考えを基に作成 2016年佐藤)



2、主体的・対話的で深い学びを実現するための視点

(1) 深い学びにつながる問題解決的な学習過程の重視

- ①切実感・必要感のある学習過程を設定する。
- ②問題の解決に向け、子供なりの根拠に基づく予想をさせる。
- ③問題解決に必要な資料や情報を収集できる場を設定する。
- ④見方・考え方を生かして考え、学習問題を解決させる。
- ⑤問題を解決した後の表現方法を理解させて学習に取り組ませる。
- ⑥学んだことを生活や学習の中で生かす。

(2) 対話的な学びにつながる他者との関わりの重視

- ①人と関わる経験などを通して問題を具体的に把握する。
- ②友達との話し合い、文献などを通して、学習問題に対する自分の問題意識を明確にする。
- ③友達と協力して情報収集にあたる。
- ④人と関わる体験、文献などを通して、学習問題の解決に役立つ情報を得る。
- ⑤友達と話し合って、問題を追究し解決する。
- ⑥友達と協力して、学習の成果を表現する。

(3) 主体的な学びにつながる子供自身による学びの自覚の重視

- ①自分の問題意識を明確にして、学習問題を把握する。
- ②学習問題に対する自分自身の予想を明確にする。
- ③問題解決にどのような情報が必要かを理解して情報の収集にあたる。
- ④自分の考えと友達のことを比較しながら話し合う。
- ⑤問題に対する自分自身の答えを明確にもって表現する。
- ⑥自分の学習の過程を振り返り、自らの学びの軌跡を確認する。

